

2020 新春座談会

東京2020大会 次世代に引き継ぐ人と絆

居心地の良いまちへ

つながる笑顔とおもてなし

(以下、敬称略)

石坂 明けましておめでとうございます。いよいよ東京2020大会の年となりました。今年も大会関連イベントを通じて、さらに機運が高まっていくのではと期待しています。

谷川 昨年は、7月に行われた男子自転車競技ロードレースのテストイベントに、ボランティアとして参加しました。また、インドネシア空手チームのプレキャンプの交流イベントでは、子どもたちが自然に選手とスキンシップをとっていて、大会本番も楽しくなりそうです。

石坂 谷川さんは、前回の東京1964大会を覚えていますか？

谷川 東京1964大会が開催されたのは、私が中学3年生の時でした。陸上を観戦したのですが、あつという間に過ぎてしまったという印象です。パラリンピックがあったことも覚えていません。今回の東京2020大会は、これまでのボランティア人生で培った経験を生かして、存分に貢献したいと考えています。

石坂 鹿沼さんはさまざまな国の大会に出場していますが、選手にとって一番のおもてなしは何だと感じていますか？

鹿沼 やはり「応援」と「笑顔」だと感じます。2010年(冬季)、2016年(夏季)とパラリンピックに出場しましたが、ベストパフォーマンスを発揮する後押ししてくれたのが現地の人たちの応援です。また、町田市の人たちに支えられているという安心感も大きな力になりましたね。自転車競技ロードレースやラグビーワールドカップでも他国を応援する姿が見られましたが、東京2020大会でも海外から来た選手を笑顔で応援する気風が続けば良いと思います。

石坂 まちだ〇ごと大作戦18-20では、伊藤さんが「まあい体操」で世界へ町田のPRをして下さいました。

伊藤 世界体操祭では最後にまあい体操をやりましたが、体操と音楽を通じて観客とひとつになることができました。この経験を生かして、東京2020大会の時には、町田市全体が一体となる活動ができればと思っています。

石坂 今年はホストタウンとして、子どもたちが海外の選手と交流する絶好の機会です。東京2020大会は、子どもたちがグローバルな視点を持つきっかけとなるのではないかと思います。

鹿沼 世界とつながるということは、子どもたちの将来にとって大きな意味を持ちます。さまざまな形で東京2020大会に参加することで、自分の道を見つめられるのではないかと期待しています。

理解を深める体験と経験

石坂 昨年、3回実施したラグビーワールドカップのパブリックビューイングでは、市民が一体となって応援していました。観ることもひとつの参加。「観るスポーツ」も盛り上げていきたいと考えています。

鹿沼 市長は、前回の東京1964大会では、ボランティアをされたとお伺いしたことがあるのですが、どのようなことをされたのですか？

石坂 実は私、当時は高校生で、サッカーのボールボーイをしていたんです。ライン際にいたので、選手の大きな脚を一番近くで見ることができました。今でも昨日のこのように覚えています。町田の子どもたちは、それを今年体験できるかもしれないわけです。自分のまちにオリ・パラの選手がいる、オリ・パラの選手がやって来るという経験は、一生忘れないのではないのでしょうか。

谷川 私たちの世代からすると、本当にうらやましいことですね。我々ボランティアは、「支える」という形で参加します。私たちは、選手や観客からいただく「ありがとう」の声が喜びであり、対価です。東京



2020大会でもボランティアを楽しみたいと思っています。

伊藤 高齢の方も、東京2020大会を元気に応援できるようにと、積極的に体操に参加してくれています。

石坂 鹿沼さんの活動は、パラスポーツへの理解にもつながっていると感じます。

鹿沼 車いすラグビーのイベントで、子どもが「どうして車いすラグビーは屋内なのか」と質問したんです。その後、パラバドミントンの体験イベントで同じ子が「グラウンドでは、車いすは漕ぎにくいので、体育館で行うんですね」と声を掛けてくれました。体験して学んでくれたことが嬉しかったです。

谷川 体験することはパラスポーツの理解につながるんですね。

鹿沼 私は左腕がないという、見た目に分かりやすい障がい者となったのですが、ジョギングしていると小学生が「普通に走れるんだね!」と声を掛けてくれます。子どもは、障がいを自然に受け入れる吸収力があるのだと感じます。

石坂 子どもたちは、体験したり学んだりしたことを親に話すので、親世代にも理解が広がる。パラスポーツを観戦したい、応援しようというきっかけになりますね。

谷川 理解することは、観る際、応援する際のマナー向上にもつながります。応援も、笑顔でポジティブな声掛けになります。

伊藤 私たちが、世界大会に出場した時も観客の方が笑顔で声を掛けてくれて、素晴らしい時間を過ごすことができました。

東京2020大会以降の新たなレガシー

石坂 今年はさらに新たな交流イベントが予定されています。併せて都市整備を進め、魅力ある町田を広くPRしていく予定です。皆さんはどんな町田にしていきたいと考えていますか？

鹿沼 東京2020大会を契機に、夢をかなえようとする子どもたちを自然に受け止めて、応援してくれるまちになればと期待しています。特に障がいのある

子どもたちには、どんな小さな夢でも大切にしてほしいです。私も、パラスポーツ、ユニバーサルスポーツを通して、共生社会がより一層深まるお手伝いをしていきたいと考えています。

谷川 大会以降は、「自立」ということも視野に入れて活動を継続したいと考えています。東京2020大会のボランティア実績を他のメンバーにつなげて、レベルアップしていくことが

目標です。国体レガシーであるまちだサポーターズが、東京2020大会レガシーと名前が変わるかもしれませんね。まだまだ引退はしませんよ。

伊藤 高齢者はもちろん、みんなが元気に笑顔になれる健康体操を推進していきたいですね。子ども、高齢者、障がい者の皆さんが、ボーダーレスに活動を広げていければと思っています。

石坂 町田市一番の大きな財産は「人」です。市民一人ひとりの、支える・応援する・伝える・理解するという「参加」と「経験」は、普遍的でボーダーレスな「居心地の良いまち」へとつながると確信しています。本日はありがとうございました。

鹿沼 由理恵さん パラアスリート

高ヶ坂在住。先天性の弱視。2016年9月リオデジャネイロパラリンピックに出場し、ロードタイムトライアルで銀メダルを獲得。同年10月、町田市民栄誉章を授与された。2019年3月に骨髄炎のため左上腕部を切断。その後は、障がい理解・共生社会を目指し、スポーツの体験イベントに携わる。

伊藤 啓子さん 町田市一般体操・リズム運動連盟会長

小野路町在住。35年間、健康づくりのリズム運動を70曲以上創作し、広めている。まちだ〇ごと大作戦18-20「まあい体操大作戦」を実施するほか、オーストリアで開催された世界体操祭に参加するなど海外でも活動中。

谷川 博宣さん まちだサポーターズ
金森在住。「まちだサポーターズ(市民ボランティア)」の一員として、東京2020大会に向けたテストイベント、PRイベントに携わる。現在は、東京2020大会の大会ボランティア、都市ボランティアへの参加に向け各種研修を受講しながら、市内のイベントで活動中。

町田で楽しむ東京2020大会

7月10日(金) 東京2020オリンピック聖火リレー

市内の走行ルートが決まりました。詳細は8面をご覧ください。

7月中旬～8月中旬 事前キャンプ

インドネシア共和国(空手・バドミントン・パラバドミントン)、中国(卓球・バレーボール・バドミントン・水泳)、南アフリカ共和国(競技は調整中)の代表選手が市内で事前キャンプを行います。

7月25日(土)・26日(日) 東京2020オリンピック自転車競技ロードレース

東京都の武蔵野の森公園をスタートし、静岡県富士スピードウェイを目指すコースの途中で、市内約3.4kmを通過します。

7月25日(土)ほか パブリックビューイングなど

事前キャンプチームや町田市ゆかりの選手の応援イベントを実施します。

問 オリンピック・パラリンピック等国際大会推進課 ☎724・4442